

『夕日が茜色に染まる頃』

飯田美博さん寄稿（前浜）

『夕日が茜色に染まる頃』香長平野の一郭に太鼓の音が響いた。ドドン、ドドン、ドドン…。撥（ばち）の打ち出す響きが私の腸（はらわた）に共鳴して、身体が揺れる思いであった。やがて、ピヤーツという笛の離子が入る。

目を瞑（つぶ）って静かに聞き入っていると、辺りの喧騒は消えて、何だか古代の響きを聞いているような幻想に引き込まれた。

そう、ここは年に一度、地域の人たちの「ふれあい祭り」の



3 B体操の軽快な踊り



この生ビールは最高、ウマイ！

会場。私がこのイベントにお邪魔するのは三度目。会の運営について何くれと世話を焼いているのは、私の中学時代の同級生、近森孝一さん。彼とは民協という組織に参加し色々とお世話になっていてという縁もあるが、現職を退いた後の生きかたとして、地域の人々のために打ち込んでいられる姿への表敬の意味もある。

それに、市町村単位の公民館活動は別として、地区公民館の営みとして、これ程立派な活動をしている公民館は他に類例を知らない。お世話をしている人たちや、地域の人々への敬意もある。

素敵なプログラムの一つに、地域の人たちの「生活の歌」の発表があった。

『みんなのふるさと岩村』
楽しくやっつてるかい岩村



この手さばきはプロ級

子どもたちはせせらぎに遊び川からあふれる、みんなの笑い声。自然がいっぱい。岩村はみんなが集まる思い出の地…。作詞は土地の人の手になるもので、軽快なポップの調べに乗って流れた。表彰台に上がった作詞者、もう直ぐお母さんになられようかと思われる美しい女性。「子どもたちはせせらぎに遊び」、「川からあふれるみんなの笑い声」…。むべなるかな、命を育んでいる若々しい女性の感性を感じた。夕暮れのそよ風が心地よく頬をなでてとおった。ござに座つて人々の交歓の中でのビールはまた格別であった。

また、来年のお祭りまで、岩村の皆様のご健勝であらんことを念じています。

知っておきたい「地上デジタル放送」

北岡淳さん寄稿（堀之内）

「地上デジタル放送」について説明会が十月十七日（土）に岩村ふれあいセンターでありました。ご存じのようにテレビのアナログ放送は平成二十三年七月で終了しデジタル放送に移行することになっています。

デジタル放送になるとどんな利点メリットがあるか？

(1) ハイビジョンの高画質、CDなみの高音質を楽しめる。

(2) データ放送によりニュースや天気予報、交通情報等暮らしに役立つ情報を何時でも見ることが出来る。

(3) 番組表をテレビ画面上で見られ、見たい番組を探したり番組予約をすることが出来る。

地上デジタル放送を見るにはどんな手続きが必要か？

- (1) デジタルテレビに替える
- (2) 手持ちのアナログテレビを続けて使いたい場合は、デジタルチューナー又はデジタルチューナー付き録画機器を取り付ける。(機種によってはデータ放送等のデジタル機能が使えない事があるから要注意)